

地域を知ろう(42)

民話・伝説 No.22 長仙寺

長仙寺の

齒神様

昔からお地蔵さまや観音様の中には庶民の間にとけこんで、いろいろな信仰の対象となつてゐることがあります。子育て地蔵や、お乳がよく出るぼち地蔵、杉並区内でも荻窪の方には、泣きべそ地蔵、などがあつてゐます。また永福町の永福時には、観音様も同じよう、有名慈母観音、荻窪には出会い観音といふものもあります。

そこで表題にある齒神様に話を移しましょう。

このお寺は新義真言宗のお寺で、日王山・阿遮院・長仙寺と言います。高円寺南三十五、八丁、西に高円寺商店街を西に入つた所で、仁王門を入ると、境内は高円寺のにぎやかな場所と隣り合ひ静かな所です。

如意輪観音の石仏があり、観音様の座像で一・四メートル位の高さで、今から二百七十年前の享保九年辰年十月とあり、高円寺村の信仰厚い



時代からのお寺です。寺の沿革によれば、創立されたのが宝永元年（一七〇四年）五代將軍綱吉の後期にあたります。本寺は江戸時代から有名な中野の宝仙寺で、両方も「仙」の字がついてゐます。このお寺の境内の木立の間に「齒神様」と呼ばれる、

人々によつて立てられたものです。観音様は顔を少しまげ右手で頬を押さえてゐます。いわゆる思案仏といわれる型なので、歯の痛みを表してゐるお姿なので、この石仏を拜んで願ひすれば歯の痛みがとれるといつた時代から人々の間に伝わり信じられたのです。そんなことから、

ひところは高円寺村のみな、郷近、近在、から、齒痛、に、悩む、人が、たくさん、来て、た、そんな、

うです。今は昔の面影もなく、忘れられたように、木の下で頬を押さえてゐます。興味ある方はどうぞお出かけください。